

# 住

## 名古屋石製品工業協同組合

# 日本の「お墓文化」を 後世へ残す

### 平和公園へのお墓移転でも活躍

日本には、古くからお彼岸やお盆にお墓参りをする風習があり、時季になると花を手向けに多くの方が墓地を訪れます。名古屋市共同墓地の中でも歴史の古いのが八事霊園です。大正3年(1914)に開園し、同4年(1915)に火葬場が完成、その後も拡充をしてきました。

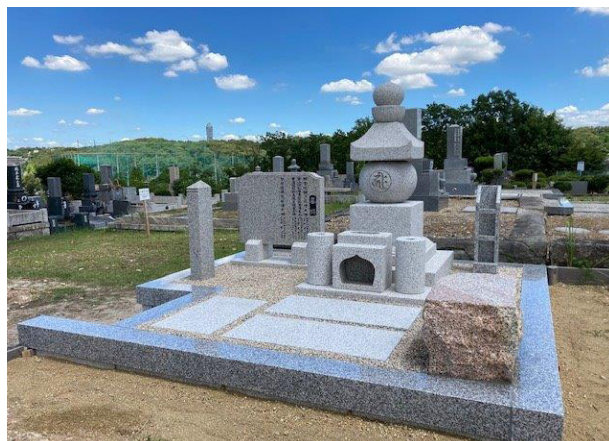
名古屋石製品工業協同組合は当初「熱田石匠組合」として立ち上げられ、八事に霊園がつけられた際に、石材業者が集まって「八事組合」となり、さらに「東南石匠組合」となります。その後、昭和61年(1986)に現在の組合となりました。現在の組合員は15社、八事のほか、平和公園、日泰寺の周辺に店を構えています。戦後の都市計画で大須や新栄に数多く集まっていた寺院の墓地を平和公園へ移動する事業にも携わりました。

### 時代とともに変わるお墓のデザイン

お墓は角柱型でそれぞれの面に故人の名前、戒名(法名)、没年、お墓の建立者などを刻み込んだものが一般的でしたが、近年は台石の上に横長で幅のある石碑を載せた洋型のお墓、球形のお墓など従来の形式にとられないものも増えています。また、故



今では世界中の石が使われている墓石



西洋風の墓などさまざまなデザインが増えている中で、最近では珍しくなった五輪塔

人が好きだった言葉や絵などを刻んだお墓も見られます。

家族のお墓を守ってくれる親族がいなくなることを見越して、多数の人の遺骨をまとめた合祀墓を希望する人、墓じまいをする人なども増え、お墓のあり方も変化しています。

現在、多くの墓石が中国でつくられています。中国産をはじめ、アフリカ産やヨーロッパ産など、世界中のものが使われています。字彫りまで、中国で行うケースもあります。

墓石の加工、デザインなどがどんな風に変化しても、お墓の持つ意味や伝えられてきたお墓参りの文化を大切に継承していくことが組合としての一つの使命です。



お墓の組み立て作業